

阿波放談

第45回

SMBC日興証券

徳島の経済活動を牽引する方々に、地域に密着した事業展開を語っていただく「SMBC日興証券阿波放談」。第45回は健祥会グループ理事長の中村太一氏にお話を伺いました。

健祥会グループ
理事長

中村 太一氏

福祉の心で

豊かな地域づくりに貢献



中村太一（なかむら・たいち）氏
昭和49年生まれ。平成8年社会福祉法人健祥会入職、同年理事に就任。平成25年より現職。平成19年より徳島商工会議所副会頭も務める。

■始まりはひとつの特別養護老人ホーム
当グループの歴史は、昭和55年、吉野川市川島町に開設した特別養護老人ホーム「水明荘」から始まりました。地域に暮らす誰もが健康で安心した生活を送れるようにという大命題に加え、父親であるグループ創始者は福祉にも付加価値が必要であるとの信念の下、当時としては画期的な視点で施設運営を行いました。内外装にホテル並みのコストをかけ、建設地は地域のメインストリート。我々の施設を利用される方々とそのご家族だけでなく誰もが参加できる夏祭りや納涼祭を行うなど、地域に開かれた社会福祉施設を目指して、広く事業展開を図ってきました。現在は4つの社会福祉法人と医療法人を束ねるグループに成長し、徳島、香川、高知、大阪、京都、東京において64事業所を運営しています。今があるのは、地域に根ざし、地域に育てていただいたおかげだと強く感じています。

■施設をキーに、地域に新しい風を

大阪、京都、東京に事業所を開設したのは、徳島の福祉サービスはレベルが高く、都市部に負けないという自負があったからです。徳島は施設整備が進んでおり、入所待機者が全国でもっとも少ない県ですから、当グループの施設を通じて徳島を知ってもらうことにより、自然環境にも恵まれた徳島の施設への移住という選択肢も出てくるかもしれません。また、徳島の施設で働く若者が都市部に行きたければ転勤という形で夢を叶えてあげられるし、徳島に戻ったときに働く場所を心配する必要もありません。施設を通じて人や文化の交流を図ることで、都市部からの高齢者移住やインターン・Uターンを促進し、地域に新たな風を呼び込めるのではないのでしょうか。

■時代の先を見据え、いつも挑戦者として

常に時代の一步先を読んで新しいサービスをつくってきたことで、当グループは利用される方々から支持をいただき、成長してきました。これからは介護予防と健康増進、リハビリが非常に重要であることから、新たな挑戦として、クリニックとリハビリセンターを開設しました。また、急務である保育人材の育成のために、来春、徳島健祥会福祉専門学校に保育学科を新設します。スケールが大きくなればなるほど現場の想いを大切にしたいと考えて、利用されている方約6千名、職員約3千名に対して定期的にアンケートを実施し、寄せられる何千もの回答にすべて目を通してサービスや職環境の向上に活かしています。

私には職員とその家族を守る使命がありますし、働きやすい環境を整えることが利用者の笑顔と満足につながると信じています。この先も「福祉は人、人は心」「心と心」の会合を胸に、地域の豊かな明日を切り開いて行きたいです。

「グループ全体が掲げる理念に感銘」



SMBC日興証券株式会社 徳島支店長 戸田博之

現場の声を施設運営に生かしたいという中村太一理事長のお考えに深く共感いたしました。お話からは福祉に対する前向きな取り組みの姿勢が伝わってきて、建設的な事業運営がグループの成長につながっていると思いました。



SMBC日興証券

徳島支店 TEL.088-622-0151

電話受付時間／平日 午前8:30～午後5:30
徳島市八百屋町2-11(ニッセイ徳島ビル)